

平成21年 5月30日現在

研究種目：基盤研究（B）（海外学術調査）

研究期間：2006～2009

課題番号：18401018

研究課題名（和文） 日中戦争下の中国東北農民と日本人「開拓団」との関係史、および残留  
帰国者の研究

研究課題名（英文）

研究代表者

寺林 伸明（TERABAYASHI NOBUAKI）

北海道開拓記念館・学芸部・研究員

研究者番号：80172104

研究分野：日本近現代史、日朝・日中関係史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日中戦争、中国東北農民、日本人「開拓団」、残留帰国者、戦後開拓

## 1. 研究計画の概要

北海道関係の「満洲開拓団」情報として、1994年の科研費・萌芽的研究で得た日本側関係者データと、2000～2004年の北海道開拓記念館の北方文化共同研究事業で得た中国側データをもとに、日中共同の現地調査を計画した。事前に、中国側として黒竜江省、吉林省の両社会科学院研究者に、日本側として山形大学、北海道大学の研究者に、それぞれ参加可能かを打診し、内諾をえた。

現地調査の計画は、詳細情報のあった黒竜江省の寧安市鏡泊湖の第一次義勇隊開拓団と、阿城市近郊の八紘開拓団についておこなうこととした。他のメンバーは、文献調査を中心として、満洲拓殖公社関係の土地収用や北海道出身の実験農家のほか、それぞれの関心ある課題について調査することとした。

## 2. 研究の進捗状況

2006年、日本側メンバーとして、山形大学人文学部の劉含発博士、北海道大学大学院文学研究科の白木澤旭児教授、北海道開拓記念館の三浦泰之研究員、北海道大学大学院文学研究科博士課程の胡慧君、同経済学部研究科博士課程の湯山英子の6名（翌年、札幌医科大学医学部講師の竹野学も）に、中国側メンバーとして、黒竜江省社会科学院歴史研究所の辛培林（08年に同東北亜研究所の杜穎副研究員も）、吉林省社会科学院東北淪陷十四年史編委会の孫繼武、孫繼英、李茂傑、鄭敏の5研究員（08年に同満鉄資料館の孫ト副研究員も）に依頼し、参加いただいた。

2007年、中国側研究者5名を山形、北海道に招聘して調査。黒竜江省寧安市鏡泊湖の旧学園、義勇隊訓練

所、同開拓団の現地漢族10人程度に取材。

2008年、中国側の若手研究者2名を山形北海道に招聘して調査。黒竜江省阿城市の旧八紘開拓団現地の漢族10人程度に取材。

## 3. 現在までの達成度

2007・2008年の現地調査記録の原稿起こし委託を終了、内容チェックと報告原稿化は着手中。引揚者、残留帰国者の調査は、継続中。中国側研究者5名の研究報告原稿を入手、翻訳委託中。日本側メンバー6名の原稿は11月締め切りの予定。

## 4. 今後の研究の推進方策

9月に、長春市の吉林省社会科学院満鉄資料館、および哈爾浜市内での文献調査をするほかは、以下の報告書作成作業の予定。

## 研究成果報告書の構成（案）

## 1. 調査報告

- ・鏡泊学園、義勇隊訓練所、同開拓団に関する現地調査記録
- ・阿城・八紘開拓団に関する現地調査記録
- ・八紘開拓団ほか「満洲」引揚者、残留帰国者の調査記録

## 2. 研究報告

- ・日中関係者の証言から見た「開拓団」の姿
- ・研究報告（中国側5名、日本側6名）
- ・日中共同研究の総括

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0件）

〔学会発表〕（計 0件）

〔図書〕（計 0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0件）

○取得状況（計 0件）

〔その他〕 なし